

三河地震(1945)における三河地方の寺院被害状況の整理

都築充雄（名古屋大学減災連携研究センター）

§ 1. はじめに

本研究は、寺院建築の地震被害は、①平面的に大きな広がりを持ち多スパンの軸組で構成される構造的特徴のバラツキが少ないためある程度統一された条件で複数の被害状況を対比することが出来る②住家に比べ耐震性能が高いため地震動の強さを評価できるレンジが広い③寺院は各地域に広く分布しているため分布範囲における広範な地域の地震の揺れを面的に対比するための指標として扱える、ことに着目して、歴史地震における寺院被害の分布から、ローカルな地盤振動特性を反映した各地域における地震の揺れの大きさと強弱のコントラストを面的に把握するものである。

寺院の被害分布把握の地勢上の意味を考えると、今回調査対象とした三河地方では、江戸時代の寺請制度から続く檀家制度により現代でも旧各集落に寺院が存在していることから、地震の揺れの強弱を旧集落単位の解像度で把握することができることになる。

これまで、安政東海地震における寺院被害を調査してきたが、今回は三河地震(1945)における三河地方の寺院被害分布について報告する。三河地震は家屋被害率から精度の高い震度分布が明らかになっている(中井・武村 2015 など)とともに、近代の被害地震であるため特に倒壊・大破についての精度の高い寺院の被害程度把握が可能である。このことから地震の揺れの強さと寺院被害程度の関係性のキャリブレーションにも利用できる。

一方三河地方では、年忌・命日法要、盆・彼岸などの参詣、寺院伽藍新築・改築など、現代も祈りの場として地域の社会機能を継続的に担っているため、市民が地域の被害イメージを想起しやすい危険度情報を提供し防災意識の向上にも有用である。

被害程度は、寺院の被害様相を寺院本堂の被害で代表させ、無被害または軽微な補修により継続使用可能な「無被害・小破」、土壁に大きなひび割れが生じる程度の被害で補修すれば使用可能な「中破」、大きな残留変形が生じ人命は保護されるも使用困難である「大破」および「倒壊」に 4 分類しているが、三河地震においては、比較的狭い範囲に大きな被害が集中しているため、中破以上の被害分布について調査した。

§ 2. 寺院被害調査

寺院被害調査は文献調査を中心に実施した。対象とした文献は、各市町村史(新旧)、愛知県歴史全集・寺院篇(S61)、日本社寺大観第二巻寺院篇、全

国寺院名鑑 中部篇などとした。

調査の結果、以下に示す、51 寺院の被害が抽出できた。

西尾市 倒壊:浄泉院・光明寺・養泉寺・西教寺・源徳寺・岩松寺・良宣寺・地藏寺・浄徳寺・法厳尼寺・妙喜寺・香厳寺・玉照寺・東禅寺、**大破:**浄名寺・真福寺・瑞用寺・恵琳寺、**中破:**嚴西寺・花岳寺・福泉寺・縁心寺・常福寺(浄福寺)・竜讚寺・勝山寺

碧南市 倒壊:観音寺・応仁寺・栄願寺・康順寺、**中破:**宝珠寺・安専寺

刈谷市 倒壊:誓満寺・東照寺、**大破:**超円寺

安城市 倒壊:本龍寺、**中破:**仙翁寺

高浜市 倒壊:寿覚寺・正林寺

豊田市 大破:満徳寺、**中破:**満徳寺・極楽寺・龍興寺・徳念寺・願誓寺・真浄寺・福寿院

幸田町 中破:長満寺・圓超寺・安楽寺・本光寺

蒲郡市 中破:宗徳寺

§ 3. 寺院被害分布の特徴

三河地震の被害が大きかった西尾市において、寺院の被害も大きく、周辺の市町村へ向かって被害が小さくなる。また、河川堆積物による緩い地盤の地域で被害が大きい傾向も見える。

中井・武村(2015)による震度 7 地域である、明治村・桜井村・三和村・福地村・横須賀村と、西尾市・碧南市・安城市の倒壊寺院の分布は良く一致している。

震度 6 強地域の刈谷市依佐美村の内、倒壊した誓満寺と大破の超円寺がある刈谷市小垣江地区は、安政東海地震(1854)・昭和東南海地震(1944)でも被害が大きかった地域である。

一方、誓満寺については刈谷市寺院録によれば、「本堂:4 世但誉代宝永 4 年 10 月、大地震にて倒壊し寛政 5 年 7 世成誉梅宣再建す。後 10 世徹誉大定元治元年に 97 坪の本堂再建なるも、昭和 20 年の三河地震にて、再度全壊。14 世體誉真我、昭和 23 年に再建し現在に至る」とあり、南海トラフ地震である宝永地震(1707)安政東海地震(1854)における被害から、昭和東南海地震(1944)の影響も考慮する必要がある。

§ 4. まとめ

寺院被害分布は、歴史地震におけるローカルな地盤振動特性を反映した各地の揺れの強弱を把握するための有効な手段となり得ることが確認できた。